

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--------------|
| 事業所番号 | 4390100685 | | |
| 法人名 | 医療法人 室原会 | | |
| 事業所名 | 認知症対応型共同生活介護 鈴の音 | | |
| 所在地 | 熊本県熊本市中央区国府1-3-15 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年 1 月 20 日 | 評価結果市町村報告日 | 令和4年 4 月 16日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>「家族的介護」という理念に基づき、認知症ケア専門士を中心に我が家のような笑顔あふれる生活を目指しケアを行っています。個人の性格や有する能力を活かし継続できるようレクリエーションや料理作りなどを計画・実施。また、1階が多目的ホール 2階がグループホーム、3階が介護付き有料老人ホームと複合型の施設です。地元で長く開業している医院が母体で施設に隣接しているため、定期検診や理学療法士・作業療法士及び言語聴覚士の訪問指導など医療面での対応も充実しています。</p> |
|--|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>近年、コロナ禍や入居者の高齢化・重度化がありますが、感染症対策をとりながら、リスクレベルに応じた家族との面会、季節を感じるための工夫、施設内の行事などの楽しみ事作りや普段の生活を大切にしたい取り組みが行われています。食事を楽しむために、家族から頂いた野菜を使って郷土料理を作り、行事で寿司や、デパートの物産展のお弁当を利用者に選んで取り寄せたりと、様々な取り組みがありました。母体の病院と連携し、定期的に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が訪問し、チームとなって支援に努めています。</p> |
|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | NPO法人 九州評価機構 |
| 所在地 | 熊本市中央区神水2丁目5番22号 |
| 訪問調査日 | 令和4年 3 月 19 日 |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「家族的介護」を介護理念に掲げている。また、地域密着型サービスの意義をふまえた心がけを作成しカードにして身につけ、親しみやすく、明るい雰囲気作りに努めている。 | 新人オリエンテーションで理念についての説明を行い、日頃から理念を記載したカードを身につけて、職員面談でも理念の実践への気持ちがかがえるなど、「家庭的介護」の共有と実践へ努めている。 | 今後、管理者交代が予定されているようなので、新しい管理者とこれまで勤めてきた職員で、新体制での理念の共有と実践について、理解を深めるための取組が期待されます。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 回覧板を回してもらい地域の活動の把握に努めている。また、コロナ禍になるまでは、お祭りやフェスタ等の行事に参加し地域の方々と交流したり、地域の保育園児やボランティアの方々に来ていただいたりと、ふれあいを大切にしている。 | コロナ禍前までは、地域のお祭りや行事への参加、地域住民や園児の来訪、公園の清掃参加等による交流を行っていた。コロナ禍では日常的な交流は難しい状況であったが、回覧板など地域とのつきあいの継続に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方対象の勉強会や体操教室を立案し、地域の方の介護と認知症の理解や支援方法の場として活用して頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回運営推進会議を開き、活動写真が掲載してある広報誌などを作成し、話し合いを行い参考意見等をサービス向上に活かしている。 | 例年、年6回運営推進会議を開催し、事業所の運営・活動状況を報告している。感染症拡大の懸念から開催が難しい際には書面による報告を行っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の担当者には事故の報告・相談及び運営上の相談等をしてアドバイスを頂いている。また、運営推進会議には地域包括支援センターの方にも参加して頂き、情報交換等行い協力関係を築くように取り組んでいる。 | 市へは報告・連絡・相談等により日頃から協力関係の構築に取り組んでいる。地域包括支援センターからは運営推進会議への参加もあり、事業所の取り組みや活動、運営状況等を伝えており、地域の情報も頂いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 安全の為、玄関・ベランダにはセンサーを取り付けているが、自由に行き来できる。また、定期的に身体拘束適正化の検討会を行い、研修や身体拘束マニュアルの中で介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を明記し拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 | 3ヶ月に1回身体拘束適正化の検討会を開催し、身体拘束となる具体的な行為の確認・事例紹介・検討を行っている。検討会では説明を繰り返し、入居者のために何が一番良いことを考えるよう意識共有を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止の担当者を設け、定期的に検討会を行っている。また、全職員が日頃から、気づきを大切にケアを行っており、入浴や更衣時にはボディチェックを行い、見過ごしがないように注意を払い、虐待防止に努めている。 | | |

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護や成年後見制度等に関する資料を基に制度について学んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前には必要な説明を行い、家族が理解・納得した上で契約を行っている。また、契約時のみならず、疑問点や要望には随時返答出来るように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 第三者委員会・意見箱の設置や、運営推進会議でご家族からの意見・要望を聴く機会を設け、それらを運営に反映させるように努めている。 | コロナ禍によりこれまでのような面会が難しい状況であったため、家族への連絡によりコミュニケーション作りを行ってきた。電話や広報による入居者の状況報告等で家族から意見が出やすい関係作りに努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的な職員会議では事前に意見を収集し、職員の提案を聴く機会を設け、反映させるように努めている。 | 職員会議開催前に、職員への事前聴き取りを行い、検討を行っている。統括マネージャーが職員会議や朝礼にも参加し、職員の意見の把握と反映が行える体制となっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者又は代理である総括マネージャーが職員会議に参加し、職員の思いや要望を聴き、職場環境・条件の整備に努めている。また、個別面談を行い職員の意見・要望等の把握にも努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的に自己評価を行い職員一人ひとりのケアの実際と力量の把握に努めている。また、外部研修や施設内の研修会の参加の機会を設け、スキルアップに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | リモートでの研修会等に参加し同業者との交流を通じサービス向上に努めている。 | | |

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前に本人と面談し、希望や不安なことを聴き、受け止めるように努めている。また、可能な方には入居前に施設に訪問して頂き、不安の解消につなげている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前の面談時や相談時には管理者・計画作成者及び介護職員も同席しご家族の思いをじっくりと聴き、それらの解消に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談時は、管理者・計画作成者及び介護職員も同席し他のサービス利用も視野に入れ、本人と家族が何を必要としているか見極めるよう支援している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 誕生会や季節行事など共に計画・実施している。また、個々に合わせ可能な家事に取り組んでいただき、日常の会話の中で学ぶ事も多く、良い関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 誕生会や行事等本人やご家族の要望も聴き、一緒に計画・実施している。また、遠方に居る家族には電話や広報誌・写真付きのハガキをだして日頃の状況を報告している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔の写真をもってきてもらったり、感染予防に努めながら、オンライン面会や窓越しでの面会を行い、ご家族や親しい人との関係が途切れないよう支援に努めている。 | 従来のような気軽な来訪の受入れは難しい状況だが、県のリスクレベルに応じて、時間制限・窓越し、オンライン面会など感染予防策を取りながらの面会を行ってきた。なじみの美容室利用や、ドライブをなどで近くを周回する等、馴染みの場所も巡った。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の相性等を考慮し食卓の席の配置を検討したり、話題作りを行い気の合う仲間との関係を大切にする支援に努めている。 | | |

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院時面会に行ったり、入院前後の相談や支援を行うように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃から一人ひとりの生活の希望や意向を聴き、行動や表情の変化を見逃さないように努めている。また、訴えが困難な場合は、ご家族にも情報を頂き、生活に反映するように努めている。 | 明確な意思表示ができる入居者は少なくなっており、日頃の行動や仕草を見ながら職員が思いや意向を把握し、職員全体で話し合い、思いや意向の共有に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前に担当ケアマネージャーから情報の収集や、自宅訪問などを行い、記録として残すと共に、ご家族の面会の際にも話を伺い把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケアの実施を個人記録として残している。また、定期的に理学療法士や作業療法士及び言語聴覚士の訪問・指導や、月1回、施設医の定期検診も行っており、色々な専門分野のスタッフにより状態把握し記録を残す事で情報共有し状態の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月モニタリングを行い本人に合ったケアの在り方について検討している。また、定期的にご家族の希望・要望を聴き、現状に即した介護計画を作成している。 | 母体である病院から、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が定期的に訪問し、チームとなって一人一人に応じたサービスの提供とケアプランの作成に努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の表情や状態など細かな事も個人記録に記入し、申し送り等で情報共有を図っている。また、ケアプランに沿った記録を行い、介護計画の見直しに活かせるように取り組んでいる。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 医療機関への通院や外出支援・地域の方々との交流などその時々生まれるニーズに柔軟に対応できるように努めている。 | | |

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 回覧板で地域の状況を把握し参加したり、地域の方にボランティアとしてきてもらっている。また、入居者の方も消防訓練に参加して頂き、心身の力を発揮し、安全な暮らしができるように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的に主治医に受診または往診してもらっている。家族が通院に付き添う際は、日常の状況などを書いた情報提供書を作成し適切な医療を受けられるように支援している。 | 入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。家族支援をお願いしているが、職員支援や、説明が必要な際には職員の同行など支援をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤職員として看護職員を配置。また、地域の医療機関を協力医とし、施設医が中心となり関係作りをおこなっている。同法人の病院とも常に連携をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 地域の医療機関を協力医にしており、施設医が中心となり連携をとっている。また、同法人に病院があるため常に連携をとり関係づくりを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期に向けた方針を作成中。入所の際に本人やご家族とも話し合いを行い、医療行為を伴う介護が必要になった場合の方針を説明している。 | 重度化や終末期に向けた方針を整備している。職員研修では看取りを経験した他施設の職員を講師に招き、看取りに関して学ぶ機会を取り組んでいる。 | 今後は看取り介護について、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最後を迎えられるように、方針の整備やチームとして支援するための取組の構築が期待されます。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員に配布してあるハンドブックに緊急時対応フローチャートを記載している。また、緊急時マニュアルの作成や同法人の担当者などが訪問・指導を行い、実践力を身に付けるように努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回、消防訓練を計画・実施している。また、自治会との協力体制を築くため、訓練に地域の消防団・自治会長にも参加してもらっている。 | 年2回、入居者も参加し消防避難訓練を行っており、例年地域からの訓練協力もある。自然災害時のシュミレーション、停電時の非常階段使用方法等、職員間で共有している。法人ではBCPへの取組みを行っているところである。 | |

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者一人一人を尊敬し、個々に応じた話し方・対応に心がけ、十分に配慮している。また、定期的に会議を行い不適切なケアなどの改善に努めている。 | 日頃から入居者一人ひとりの尊重とプライバシー確保のため、言葉遣い等に配慮したケアを行っている。3ヶ月毎の会議では対応、認知症の方への言葉遣い、トイレ使用時の声掛け等事例が出され、検討された内容は議事録で周知している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 表情をみてくみ取ったり、声のかけ方や傾聴の仕方に配慮し、思いや希望を表現できるような環境を作り、自己決定出来るように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人のペースに合わせた生活をしていただくように「どうしたいのか」「何をしたいのか」、声掛け・傾聴を頻繁に行い、気持ちの把握に努め支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 洋服や化粧品など好みの物を購入・使用できるように配慮し、本人や家族の希望でカットやパーマをできるように支援している。また、行きつけの美容室に同行している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 昼食やおやつ作りを計画・実施し、個々の機能を活かせるように努めている。また、栄養管理運営委員会を設置し、年に2回嗜好を聴いたり、状態に応じた食事を提供できるようアンケートを実施している。 | 栄養士の献立により事業所で作られた食事を、入居者それぞれの嚥下状態により提供している。行事食や事業所でのおやつ作りも行っている。デパートの物産展で入居者にお弁当を選んで貰い、事業所内でお寿司バイキングを楽しむ等、バラエティ豊かな取組みがある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 朝・昼・夕に分けて食事量・水分摂取量を記録し、状態把握に努めている。また、状態に応じて主治医や言語聴覚士・管理栄養士と食事形態の検討も行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケア・義歯の洗浄は毎食後行っている。また、訪問歯科検診や診療等も受け、一人ひとりの口腔状態の把握に努めている。 | | |

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表の記入により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、不快感等の解消に努めできるだけ日中は布パンツを使用し、自立面やコスト面にむけた支援を行っている。 | 入居者一人ひとりの記録により声掛け等も行い、日中は布パンツを使用し、出来るかぎりトイレでの排泄を支援している。オムツやパットは担当が一人ひとりに合わせたものを検討し試みている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | できるだけ薬に頼らず排便があるように、水分摂取量を増やしたり、レクリエーション参加や散歩を促し活動量アップに取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 原則隔日入浴ではあるが、入浴前に体調等を聴き入浴日をずらしたりと個人のペースに応じて入浴できるように支援している。また、しょうぶ湯やゆず湯など季節湯も楽しんでいただいている。 | 週3回程度の入浴を基本としており、必要に応じ足浴や清拭、体調によっては日をずらした対応を行っている。午前・午後とも利用可能で、機械浴もある。季節ごとの楽しみ湯も行っている。着替え準備の際は入居者の好みや選択の場面も作っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ソファで休息したり、自分の部屋で過ごしたりと自由にできる環境づくりに努めている。また、就寝前は穏やかな雰囲気づくりやお昼寝の時間を設けることにより、生活にメリハリができ、夜間もぐっすり休めるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人ファイルに効能書を綴り、副作用や用量の把握に努めている。また、服薬チェック表を作り誤薬・飲み忘れ等がないように管理しスタッフ間で共有し症状の変化を早期発見できるように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物を干したりたたんだり個人あわせた役割や、パズルや読書・脳トレなどの個人の力や希望に沿った支援をしている。また、ご家族等に聞き取りをし、趣味や興味のある事の発見に努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 初詣やお花見など季節に応じた場所に出かけたり、美容室など本人の希望に応じて外出等の支援を行っている。また、近所の散歩や買い物など日常的な支援も行っている。 | 例年、近隣の散歩や近くのスーパーでの買い物、季節の花見や計画による外出等を支援している。コロナ禍ではあるが、個別支援で初詣や散歩時の季節の花見等行っている。外出が難しい時にはベランダでの日光浴等外気を感じる支援を行っている。 | |

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ほとんどの入居者の方は、お金の管理は無理があるので施設で管理しているが、買い物など必要な際は、職員が付き添い本人が支払い出来るように支援している。また、家族の希望で小銭程度のお金を所持している方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙のやり取りは自由にしている。また、ご家族や親しい方に手紙や年賀状を書いてもらうなどの支援もしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を感じていただくために、ベランダで草花を育てたり、テーブルには季節の花を飾っている。また、季節に応じた飾りで演出したり、入居者手作りの作品も展示している。室温・湿度の調整にも心がけ、常に快適に過ごせるよう努めている。 | 「なるべく家庭的に」の思いで生活を感じる共用空間づくりとして季節の花を育てたり、季節の飾りを行っている。感染予防から換気・室温・湿度にも配慮しており、関連事業所のスタッフから感染予防指導も受けた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用スペースにソファや畳を置いたり、ベランダ近くにも椅子を設け、外の景色を眺めたりと個々の思いの場所で過ごせるように工夫をしている。また、利用者同士の関係や好きな時間の過ごし方を把握し、提供に努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人が慣れ親しんだ物をもってきていただくように説明はしているが、家族の希望で新品をもってこられる方が多いのが現状。その中でも家族写真や仏壇を置き居心地良く過ごせるように工夫している。 | 出来るだけ使い慣れた生活用品の持ち込みをお願いし、鏡台や仏壇、絨毯、こたつ等も見られる。感染症の心配がない時期には面会により居室でご夫婦の時間を過ごす姿も見られた。トイレが設置された居室もある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりやバリアフリー・ベッドの高さの調整等で個人の自立を促している。また、自分の部屋を認識できるように親しみある人形やそれぞれちがったのれん・写真をドアの横に飾ったり、ナースコールを設置し安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。 | | |

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 鈴の音

作成日令和4 年 4 月 5 日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目 標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|-----------------------------------|--|---|------------|
| 1 | 49 | コロナ禍で外出や面会制限などの行動制限で以前のような活動ができない | 個別や少人数での活動の継続 | 感染対策を行い、ご家族と外出計画や理学療法士・作業療法士とも相談しながら個別でのリハビリ等をケアプランで明確にする | 1年 |
| 2 | 1 | 今後、管理者交代予定 | 新体制の継続 | 事前にご家族や入居者の方への十分な説明と職員間で新体制での理念の共有 | 2年 |
| 3 | 33 | 看取り介護に向けての方針の整備やチームとしての取り組みの構築 | 日頃からご本人やご家族の終末期に対しての意向の確認や事業所ができることを説明し方針の共有 | 看取り（重度化）に向けた方針の作成と研修とコミュニケーションを行う | 1年 |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。